

## 「社会保障給付費」

去る8月1日、国立社会保障・人口問題研究所は平成27年度（2015）の社会保障費用統計を発表しました。それによると社会保障給付費は前年度より2兆6,924億円（前年度比+2.4%）増の114兆8,596億円でした。これはわが国の平成29年度一般会計予算97兆4,547億円を上回る極めて巨額なものです。

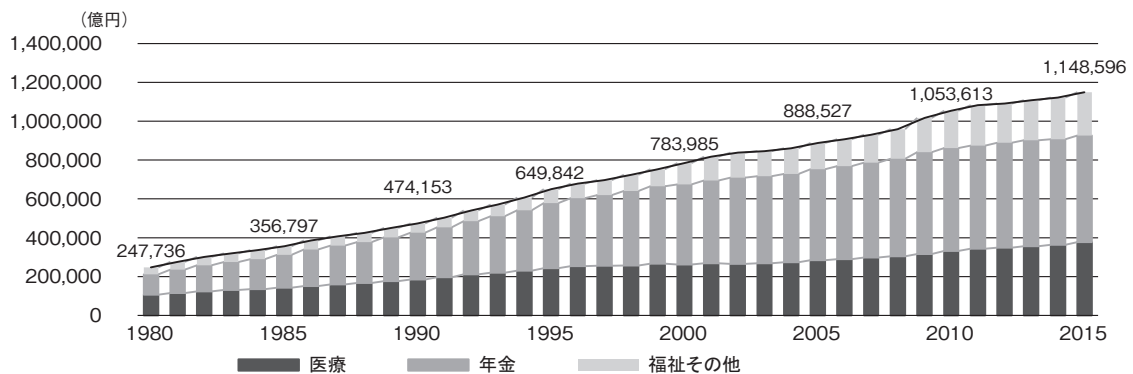
### 1. 「社会保障給付費」とは？

社会保障給付費とは、「医療」「年金」「福祉その他」の社会保障3分野において、税金や社会保険料などを財源とした費用をILO（国際労働機関）の基準によって集計したものを指します。「福祉その他」には介護、生活保護などが含まれます。医療費などにおける自己負担額は含みません。なお社会保障費用統計では、OECD（経済協力開発機構）基準による「社会支出」の集計結果を合わせて公表しています。

### 2. 増加し続ける社会保障給付費

冒頭に述べたとおり、社会保障給付額は昨年度と比較し2兆6,924億円増加しました。これまで年々増加傾向をたどり、昭和55年度（1980）との比較（24兆7,736億円）では+90兆860億円と約4.6倍の大幅な増加となっています（下図参照）。また、国民1人当たりには換算すると903,700円、GDPに占める割合は21.58%と、非常に巨額であることが理解いただけると思います。

< 社会保障給付費の年度別推移 >



国立社会保障・人口問題研究所「社会保障費用統計」

### 3. 今後はどうなる？

上述のとおり、社会保障給付費は年々増加傾向をたどっています。わが国では高齢化の進展等に伴い、今後もますます増加していくのは確実と思われます。一方、少子化も同様に進展、生産年齢人口（15歳～64歳の減少により、国の社会保険料収入は増加が期待できない状況です。社会保障給付費と社会保険料収入との差額は国が負担することとなりますが、結局これは国民が負担することです。つまり、国民負担率がますます大きくなるということになります。私たち一人ひとりがこの事実を認識し、少子高齢化社会の進展について真剣に考えていくことが必要です。

### 閑話ひとつ

- ▶ 「昔はよかった」など、最近ふたこと目には「昔」という言葉を口にしていて自分に反省しきりなのですが、そもそも「昔」とはいつ頃のことを指すのか、辞書で調べたら「回想の対象となる過去のある時」などとありました。私にとって、それはいつか？!
- ▶ 10年くらい前のことを「昔」とは言っていないような…もちろん100年前にはまだこの世に誕生していないので、そこまで過去ではない…そして「ハッ」と気づきました。それは「昭和」の頃を指しているんじゃないかと…。元号が改まっただけですが、昭和と平成の間には大きな変化・隔たりがあるように感じます。これは、単に自分が歳をとったということか？ いや、確かにあの頃は時がゆっくり進み、今とは違う「昔」があったような気がします。やっぱり「昔はよかった！」
- ▶ ところで天皇陛下がご退位され、再び改元が行われたらどうなるのだろうか…。ここでまた「ハッ」と気づきました。きっと平成が「昔」で、昭和は「大昔」になるのでは?! (MS)